

(代表質問)

質問日	令和4年11月30日(水)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	創造浜松	議席番号	22	氏名	太田 利実保
表題	質問内容						答弁者の職名
1 豪雨災害への対応について	<p>9月23日の豪雨災害は市内各所に甚大な被害をもたらし、人的被害のほか、床上床下浸水、車の浸水被害などにより市民の大切な財産が失われた。</p> <p>災害対応の状況をしっかりと検証し、今後も予想される豪雨災害に対し、できるだけ被害を回避し、軽減する取組を継続していかなければならない。</p> <p>そこで、以下6点伺う。</p>						
(1) 災害対応の体制について	(1) 現場の最前線で情報収集や避難誘導に当たる区本部の体制において、今回、被害が集中した東区、浜北区、天竜区の配備要員の人数や情報収集、情報発信等運営上の課題はなかったか。また、災害対策各部と区本部との情報共有体制についてはどうであったのか伺う。						小松危機管理監
(2) 避難行動について	(2) 河川の氾濫の恐れによる避難情報として、唐突にレベル5：緊急安全確保が発令された河川が1河川あった。河川水位の情報収集に課題はなかったか。また、避難情報による市民の避難行動について、区版避難行動計画のさらなる周知の必要性を伺う。						〃
(3) 被害想定区域内の災害対応施設について	(3) 天竜区役所は急傾斜地崩壊危険区域内にある。建物が被災した場合を想定し、代替機能の確保について考えを伺う。また、被害想定区域内の緊急避難場所についても指定の見直し等の考えを伺う。						〃
(4) 消防局の対応について	(4) 天竜消防署も土砂災害警戒区域に含まれる。施設が被災した場合の消防力の確保について伺う。また、消防局として、今回の台風第15号への対応の検証と今後の対応について伺う。						猪又消防長
(5) 緑恵台の盛土崩落について	(5) 緑恵台の約8100立方メートルの盛土のうち、約3400立方メートルが崩落し、現地にはまだ約4700立方メートルが残っている。盛土撤去等の安全対策について伺う。						伏木土木部長
(6) 建設残土対策について	(6) 本市の公共工事における建設発生土の処分はどのような実態か伺う。						石切山財務部長
2 カーボンニュートラルへの取組について							
(1) カーボンオフセットについて	(1) 本市のカーボンオフセットへの取組として、林業分野においては、平成21年度に森林でのカーボンオフセットモデルを構築する事業を実施した。また、本年8月には、ソミックマネージメントホールディングスと天竜の林業家により、企業のカーボンオフセットを支援する取組が始まった。こうした林業分野のほか、再生可能エネルギーの利用やカーボンオフセット商品の						村上カーボンニュートラル推進事業本部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) カーボンクレジットについて	<p>販売、購入など、本市のこれまでのカーボンオフセットの取組について伺う。</p> <p>(2) カーボンオフセット制度のもと、CO₂排出削減量をカーボンクレジット化して売買取引を行うことで、CO₂を相殺できる仕組みが拡大しつつある。民間主導のプラットフォームによる市場が拡大し、また、東京証券取引所によるカーボンクレジットの試行取引も始まった。しかし、前提として、データに基づいたCO₂排出量等の適切な算定が必要であることや、要件を満たしたプロジェクト計画書の作成、データのモニタリングといった作業が必要になる。</p> <p>ア 本市のカーボンクレジット売買の現状、カーボンクレジット制度参加への支援、カーボンクレジット制度による地域雇用の創出や産業の活性化について、考えを伺う。</p> <p>イ 森林管理による二酸化炭素吸収量のクレジット化、クレジット活用による森林林業の活性化について伺う。</p>	<p>村上カーボンニュートラル推進事業本部長 清水農林水産担当部長</p>
3 工場廃業後に残置された産業廃棄物への対処について	<p>天竜区内にある数年前から稼働していない廃油精製工場の敷地内に、廃油が入った大量のドラム缶やプラスチックタンクが残されている。</p> <p>こうした周辺環境への悪影響が懸念される産業廃棄物が残置された場合の対処をどう考えるのか。住民の安全・安心確保に向けた考えを伺う。</p>	<p>藤田環境部長</p>
4 中山間地域の振興について	<p>人口減少、少子高齢化、限界集落の増加といった状況にある中山間地域の振興は、中山間地域振興計画によって施策の方向性が示され、また、春野、佐久間、水窪、龍山の4地域については、過疎地域持続的発展計画により具体的な事業を挙げ、財源確保に努めながら施策を展開している。</p> <p>中でも、移住に関しては、コロナ禍によって、働き方の変化、地方への移住関心度が高まり、本市への移住相談件数の増加や本市の助成制度を使つての移住件数の増加につながっている。</p> <p>三遠南信自動車道は、青崩峠トンネルにおいて90%以上の掘削が進み、また、佐久間川合インターから水窪インターまでの事業化が決定されるなど、全線開通の時期は示されていないが、開通後の地域間交流の活発化による賑わい創出が大いに期待される。</p> <p>そこで、以下3点伺う。</p> <p>(1) 移住に対する全国的な動向についての認識と今後の移住支援体制の強化について、考えを伺う。</p> <p>(2) 三遠南信自動車道の開通を見据えた振興策、時限的な措置である過疎地域持続的発展計画の施策を含め、</p>	<p>奥家市民部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>令和7年度からの中山間地域振興計画にどう反映させていくのか、中山間地域の将来像について考えを伺う。</p> <p>(3) 人口が急減する地域を対象にした、複数の事業者が共同で働き手を雇い入れる特定地域づくり事業協同組合は、10年間、組合運営費の半額が公費により助成されるメリットがある。安定的な雇用環境の創出、移住者の増加に資するものとして全国に広がりを見せ、10月には三遠南信地域としては初となる組合が愛知県設楽町で発足した。本制度の活用に向けた考えを伺う。</p>	
<p>5 令和5年度予算編成について</p> <p>6 クラウドファンディング型ふるさと納税について</p>	<p>令和3年度の決算は、財政力指数が0.02ポイント低下し、扶助費が増加したことを除けば、良好な財政指標を示している。しかし物価高や原材料高で歳出が膨らむことが予想される中で、コロナ対策、アフターコロナ戦略、カーボンニュートラル、防災、区再編への対応等、重要な課題に取り組んでいかなければならない。</p> <p>決算審査特別委員会の指摘事項「積極的な事業推進のための予算編成について」を踏まえ、来年度の予算編成について考えを伺う。</p> <p>クラウドファンディング型ふるさと納税は、本年度、子ども食堂や学習支援等、子供の居場所事業を行う団体に助成する目的で行われたほか、空き店舗を改装した地域のコミュニティスペースづくりに対して行われた。</p> <p>どのような事業にこの制度を適用するのか、広く理解を得られるものとしなければならないが、実施するまでのプロセスについて伺う。</p>	<p>鈴木市長</p> <p>石切山財務部長</p>
<p>7 不登校児童・生徒への支援について</p>	<p>令和3年度の全国小・中学校の不登校児童・生徒数は、3年連続過去最高の24万4940人。本市の令和3年度の不登校児童数は643人、不登校生徒数は1260人で年々増加している。</p> <p>学校への登校を強制せず、それぞれに合った学習環境を保障するため、教育機会確保法が平成29年2月に施行され、本市は校内及び校外の適応指導教室を設置・運営し、令和3年度の入級者はそれぞれ356人、166人となっている。</p> <p>そこで、以下4点伺う。</p> <p>(1) 不登校を生じさせない学校づくりについて伺う。</p> <p>(2) 今後の不登校児童・生徒への支援の方向性について伺う。</p> <p>(3) 教室に入ることが困難な児童・生徒の不登校初期段階への対応として、校内適応指導教室の意義は大きい。岡崎市では、校内適応指導教室を発展的に解消し、F</p>	<p>宮崎教育長</p> <p>〃</p> <p>田中学校教育部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>組と呼ばれる校内フリースクールを令和2年度に設置した。通常の学級と同じ一つの学級として位置づけることで段差を解消し、担任を配置することで学習や活動をコーディネートするという特徴がある。本市の校内適応指導教室の取組と今後の見通しを伺う。</p> <p>(4) 社会とのつながりを持続し、集団生活への適応のためには地域との関わりも大事な要素である。各教室の地域特性を生かした校外適応指導教室の取組と課題について、考えを伺う。</p>	<p>田中学校教育部長</p>